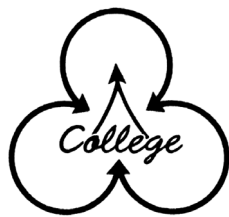




建学の精神

松山東雲学園の建学の精神は、「信仰・希望・愛」であらわされるキリスト教精神です。松山東雲学園はこの精神にもとづき、神を畏れ、神による希望に生き、神と隣人を愛する、自立した女性を育成する教育を目指します。



松山東雲学園 校章・マーク
ゆかしい色の紫地に、真白い雪びらを抜き出したものが、松山東雲学園の前身、松山女学校時代の校旗で、雪びらが校章でした。その後、高等学校がホイテ校長及び西村都夫教諭時代になって、生徒の胸につける徽章制定にあたり、聖書の信仰と希望と愛の三つを象徴する三つ葉のクローバーを選び、松山女学校の名残をとどめるべく、松葉をもって図案化されました。

学校法人 松山東雲学園

〒790-8531 愛媛県松山市桑原3-2-1

TEL : 089-931-6211 FAX : 089-933-5559



創立

松山東雲学園は、1886年(明治19)松山第一基督教会の二宮邦次郎牧師により、四国最初の女学校として設立された(松山女学校)を前身としています。

開校のきっかけは、重松テイという女性が「勉強がしたい」と二宮のもとを訪ねたことです。二宮の女子教育への理想に触れた増田シヅは、神戸女学校卒業後には無報酬で英語を教えたいと申し出ました。二宮は元・伊予小松藩の家老で今治教会で受洗していた喜多川久徹に援助を頼んだところ、喜多川は私財を投じて開校に協力。一家を上げて松山に引っ越し、娘を入学させた上に、無報酬で幹事を引き受けました。二宮も私財を投げ出し、ほとんど無一文になり、やはり無報酬で校長職に就きました。

出湖町一丁目に借りた民家を校舎として、開校式が行なわれ、生徒は重松テイと喜多川トクの二人でしたが、新しい時代の幕開けと期待する松山の名士70名が参列して開校を祝ったといわれます。この年、全国の公立女学校はわずか7校でしたが、キリスト教女学校は30校に達していたそうです。翌年には生徒数は40人になり、廃校になった松山中学の校舎を借りて移りました。その後、県議を務める長屋忠明の斡旋で、二番町に洋風校舎を新築。生徒たちも率先して募金運動に動きました。

二宮はアメリカンボード(アメリカ伝道会社)の協力を得て、若い女性宣教師を招聘して、音楽、英語、キリスト教教育のレベルアップを図りました。招かれて10年間教師を務めたコーネリア・ジャジソンは、経営的困難から廃校に追い込まれていた松山女学校を1906年(明治39)ミッションボードの経営に移し、2代校長になって復興に尽力。特に1914年(大正3)母国からの献金を募り、赤十字病院跡地(現在の高等学校地)を購入し、今日の学校の基礎をついた功績は、多大なるものがあります。

1932年(昭和7)高等女学校令により、四年制の高等学校に改組したのを機に、(松山東雲高等女学校)と改称。1964年(昭和39)県下において最初的女子短期大学を設立しました。1992年(平成4)女子大学を設置、人間文化、言語文化の2学科からなる人文学部をおきました。

創立の背景と歴史

松山女学校の開校には、熊本バンドと同志社、組合教会が大きな影響を与えています。1871年(明治4)熊本の将来を嘱望される青年を政治家として養成するために、熊本洋学校が設立され、アメリカの砲兵大尉ジェーンズが招聘されました。L・L・ジェーンズから教えを受けた青年たちは、聖書を学び、将来国家有為な人材となることを誓いました。これを熊本バンド(盟約)といいます。しかし、守旧派による反対で洋学校は廃校。彼らは創立間もない、京都・同志社に入学し、新島襄の薫陶を受けました。同志社の最初の卒業生15名は、すべて熊本バンドのメンバーで、伝道のために各地に散っていきました。四国では、愛媛・今治に伊勢時雄(暗殺された横井小楠の遺児)が今治教会(1879年)を、岡山に金森通倫が日本組合基督教会岡山教会(1880年)を設立しています。

当時の松山は、神戸教会の仮牧師であったアッキンソン宣教師が、黒田進と菱田中行の依頼で1876年(明治9)松山に宣教に訪れた際、町中が騒然となって暴動が起こりそうになり、黒田が座敷牢に入れられるほど保守的な土地柄でした。しかし同時に、明治維新の直後に行なわれた地租改正、徴兵令、学制改革といった急激な大改革は、貧窮にあえぐ庶民にとって苦しさを増すもので、一揆が多発し、自由民権運動へも発展しました。

創設者 二宮邦次郎は、1860年(万延元)岡山県高梁に生まれ、自由民権運動に身を投じながら、小学校の教員を務めていました。

20歳のとき、毎月1回高梁に伝道に来ていた金森の説教を聞き、新しい人生のベクトルに出会います。二宮はかつて『天道溯源』(アメリカ長老会の宣教師ウィリアム・A・P・マーティンによって中国人向けに書かれた漢文のキリスト教教義書)を読んだ経験もありました。新島が高梁伝道に赴いた際に、宿を訪ねたことをきっかけに、人生が激変します。

新島の勧めから、同志社に学び伝道者となった二宮は、1882年(明治15)仮牧師として高梁教会を創立。今治教会の伊勢の下で伝道師となり、伊予小松・西条・松山伝道に派遣されました。小松教会が創立されるとすぐに、松山伝道に着手。1885年(明治18)松山第一基督教会(現・日本キリスト教団松山教会)を創立し、翌年の1886年(明治19)9月16日、松山女学校を開校するのです。

当時の教会への迫害は激しく、高梁教会や松山教会、伊予小松教会でも、投げ入れられた石は建物の基礎に用いられるほどの量であったといわれています。しかし、ジャジソンが就任したころから、迫害は徐々に収まり、1889年(明治22)には93名もの受洗者を出すまでに至ったのです。ジャジソンはまた、1891年(明治24)学校に行かれない子供たちのために、のちに5代校長になった西村清雄の協力を得て(松山夜学校)(のちの松山学院)を始めます。

1897年(明治30)アメリカンボード四国ステーションが松山に置かれ、松山女学校は経済的援助を受け始めます。一方、二宮は日本伝道会社の依頼で開拓伝道にあたるようになり、1900年(明治33)松山を離れました。校長不在の学校は、西村や黒田ハルをはじめとする女学校の卒業生、ジャジソンによって守られました。



創立者 二宮邦次郎(1886~1932年)
信仰と教育のある女性を育てなければならぬと、開校に尽力しました。

